

【海外拠点】 山口銀行青島支店、山口銀行大連支店、山口銀行香港駐在員事務所
【現地駐在】 HD 銀行(ベトナム・ホーチミン)



【香港駐在員事務所】

日系建設業界のビジネスチャンス

1. はじめに

戦後、香港で日系建設会社が初めて受注した工事は、1960 年代に始まった世界初の海に建設された淡水貯水湖に関わる事業とされています。1950 年代に入り人口が急増し、水の消費量も大きく増えましたが、貯水湖を建設できる場所がほとんど残っていませんでした。そのような状況下、深刻な干ばつによる水不足も発生し、給水制限をせざるを得ない状況になりました。政府は水対策として、中国本土から淡水の輸送を始めるとともに、入り江を利用した海水の淡水化事業を決定しました。日本では黒部ダム建設が行われていた頃であり、その難工事で培われた高い技術力を活かすべく日系建設会社が工事を請け負い、水不足の解消に貢献しました。

さて、今回は日系建設業界のビジネスチャンスについてご紹介いたします。

2. 香港の建設投資

2025 年度の公共投資予算は 1,193 億香港ドル（約 2.3 兆円）で、歳出額全体（8,223 億香港ドル、約 15.6 兆円）の 14.5% を占めています。また、民間投資を含めると建設投資額は 2,000 億香港ドル（約 3.8 兆円）を超える見込みです。

政府は近年公共投資予算を 15% 前後確保し、以下のようなプロジェクトに充てています。

- ① インフラ整備（道路、橋梁、鉄道等）
- ② 公共施設（病院、学校、公営住宅等）
- ③ 都市再開発（土地開発、環境対策等）

3. 香港の建設現場の特徴



竹で組んだ足場【筆者撮影】

香港では昔ながらの竹で組んだ足場が現在も多くの建設現場で利用されています。

竹を利用する主な理由として、①金属製に比べて軽く、持ち運び・組立・解体がしやすい、②狭い場所でも足場が組める、③長さの調整が可能、④中国本土から安価で調達でき、低コスト等が挙げられます。しかしながら、強度や耐久性の面で金属製に劣り、高層建築では安全性に懸念があるという声も出ています。最近では竹の足場を組む職人の高齢化や規制強化の影響により、金属製の足場が徐々に増えている状況です。

日系建設会社の話では、コスト面でのメリットが大きく、竹の足場が使用できる現場は利用を続けていくということでした。世界的にはあまり見かけなくなりましたが、香港という土地柄もあり、完全になくなることはなさそうです。

4. 今後の大型案件

以下のような大型案件が進行中または計画されています。

①北部都会区開発

香港政府が最優先に取り組んでいる大規模開発です。これまで開発されていなかった北部地域に住居、商業施設、公共施設、交通インフラ（中国本土を結ぶ鉄道路線等）の整備が進んでいます。将来的には同地域に約 250 万人が居住できるニュータウンを形成する計画です。ビジネスにおいては、隣接する広東省深圳市との連携を強化し、世界中から企業、研究開発機関、高度教育機関を誘致し、国際的なイノベーション&テクノロジーハブの構築を目指しています。

②交椅洲人工島計画

交椅洲周辺（香港島とランタオ島の間）に総面積 1,000 ヘクタールの 3 つの人工島を造成する計画です。当初は 2025 年から埋立作業を開始予定でしたが、政府の財政状況を勘案し、延期になりました。総事業費 5,800 億香港ドル（約 11.0 兆円）、20 年間に及ぶ一大プロジェクトで、人工島に住居、商業・医療・教育・観光関連の施設、公共施設、交通インフラ、緑地等が整備され、50～55 万人が居住できる見込みです。交通インフラは香港島とランタオ島を繋ぐ道路や鉄道、人工島同士を繋ぐ輸送システムの敷設が予定されています。

その他、慢性的な住居不足問題の解消に向けて、現在 5 ヶ所で埋立工事を検討中です。

③香港国際空港開発

大規模な拡張プロジェクト「スカイトピア計画」が進行中です。2024 年 11 月に 3 本の滑走路の同時運用が始まり、2025 年末にはターミナル 2 が再オープン予定です。また、隣接する商業施設の建設等、空港のハブ機能強化に向けた複数の事業が進んでいます。

④カーボンニュートラル対策

政府は 2050 年までにカーボンニュートラルの達成を目指しており、2035 年までに CO2 排出量を 2005 年のレベルから 50%削減するとしています。

CO2 排出の主な原因は発電、運輸、廃棄物の 3 分野に集中しており、排出削減に向けた施策として、洋上風力発電等の再生可能エネルギーの利用、建築物の省エネ、電気自動車や電気自動車バスの普及、都市緑化などが計画されています。



北部都会区開発状況【筆者撮影】



交椅洲人工島計画【香港政府海事處 HP】

5. おわりに

日系建設会社は淡水化事業以外にも、沈埋工法による香港島と九龍半島を結ぶ地下鉄の海底トンネル、離島を結ぶ橋梁（汲水門大橋他）、香港国際空港の埋立等、重要なインフラ整備に関わり大きな役割を果たしてきました。

近時香港に拠点を有する日系建設会社は以前より減少していますが、現在も空港、学校、病院、発電所等の工事を請け負っています。また、今年 3 月に旧啓徳空港跡地にオープンした大型多目的スタジアム「カイトックススポーツスタジアム」（約 5 万人収容）の開閉屋根駆動システムを日本企業が約 50 億円で受注し施工しました。

香港では今後も安定した建設需要が見込まれており、カーボンニュートラル（再生可能エネルギー、建築物の省エネ等）、交通インフラ、埋立、自然災害対応などの分野において、日本の先進的な技術を活かせるビジネスチャンスが生まれることが期待されます。

（山口銀行香港駐在員事務所 山根 元博）

【参考文献】

- ・ 木本正次（1991 年）「香港の水」 日本放送出版協会
- ・ 香港政府統計處 HP
<https://www.censtatd.gov.hk/tc/>
- ・ 香港政府海事處 HP
<https://www.mardep.gov.hk/tc/home/index.html>
- ・ 日本貿易振興機構（JETRO）
香港でのイノベーション－研究開発とテック企業に対する魅力（2024 年 3 月 28 日）
<https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/2024/857b7b1e9b05b7b1.html>
- ・ 日刊産業新聞
横河システム建築、開閉屋根システム受注 香港の大型スタジアム（2020 年 9 月 7 日）
<https://www.japanmetal.com/news-t2020090799540.html>